

病害虫発生予察注意報第 6 号

佐賀県

タマネギべと病については、注意報第 5 号（令和 2 年 3 月 4 日付け）を発表し、注意喚起を行ってきたところですが、二次伝染が早期から開始されたため、発生が増加しています。ついては、以下を参考に、防除対策を確実に実施してください。

作物名：タマネギ（早生・中晩生品種）

病害虫名：べと病

1. 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1)現在の発生状況（令和 2 年 3 月 16～17 日調査）

(1)県内のマルチ栽培 24 圃場（早生品種）を調査した結果、発生圃場率は 37.5%であった。平均発生株率は 7.4%（平年 0.5%、平成 28 年 1.7%）であり、圃場間で差が大きいものの、平年より高く、かつ多発生した平成 28 年よりも高い（表 1）。

(2)また、県内の露地栽培 24 圃場（中晩生品種主体）を調査した結果、発生圃場率は 50.0%であった。平均発生株率は 5.6%（平年 0.3%、平成 28 年 1.1%）であり、圃場間で差が大きいものの、平年より高く、かつ多発生した平成 28 年よりも高い（表 1）。

(3)本年は、タマネギべと病の二次伝染が、早期から開始されたため、本伝染による病斑の増加により、発生株率が高くなっている（写真 1～4）

2)今後の発生予想

(1)2 月 28 日～3 月 1 日、及び 3 月 8～10 日の天候は曇雨天で推移し、べと病菌による感染が助長されたと推定される。本病菌による感染から発病の潜伏期間は、約 2 週間であることから、防除が不十分であった圃場では、今後、発病が増加する可能性がある。

(2)さらに、福岡管区气象台が 3 月 12 日に発表した九州北部地方の 1 か月予報では、天気は数日の周期で変わると予想されている。このため、感染に好適な曇雨天が出現し、さらなる感染が助長されると予想される。

表1 県内各地域におけるタマネギべと病の平均発生株率

調査年	マルチ栽培圃場			露地栽培圃場			
	3月 下旬	4月 月上旬	4月 月下旬	3月 下旬	4月 月上旬	4月 月下旬	5月 月上旬
	%	%	%	%	%	%	%
令和2年	7.4			5.6			
平年	0.5	21.3	18.9	0.3	16.5	18.5	24.9
平成28年（多発生年）	1.7	87.6	欠 ^{注1)}	1.1	57.4	50.3	41.3

注 1) 葉枯病等、他病害との混発により、調査不能。



写真1 マルチ栽培圃場での二次病斑



写真2 露地栽培圃場での二次病斑

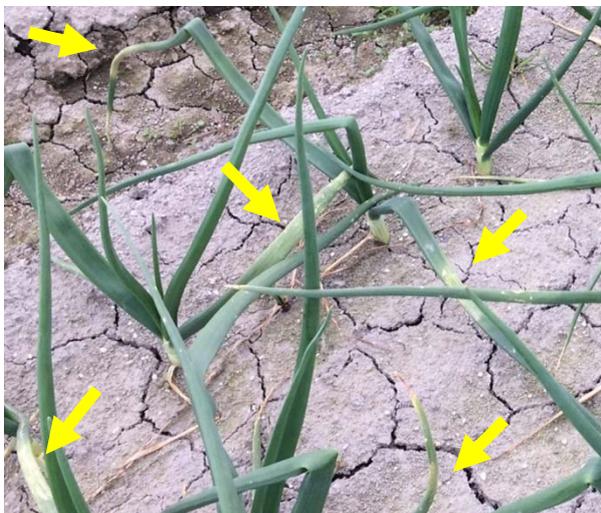


写真3 露地栽培圃場での二次病斑



写真4 二次病斑の拡大図

写真はすべて令和2年3月16日撮影

3. 防除上注意すべき事項

- 1)一次感染株は周囲への伝染源となるため、早急に抜取りを行う。
- 2)感染・発病後の薬剤散布では、防除効果が低いので、感染前の予防防除に努める。週間天気予報により曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に防除を実施する。
- 3)特に、べと病にかかりやすくなるりん茎が肥大し始める頃からは、ジマンダイセン水和剤等のマンゼブ剤を核とした、継続的な予防散布を徹底する。なお、ジマンダイセン水和剤には、ミックスパワー（3000倍）またはまくぴか（5000倍）を展着剤として加用する。
- 4)タマネギべと病菌は、周辺圃場まで広く伝染するため、地域全体で防除対策に取り組む。
- 5)その他、防除対策の詳細は、令和2年3月4日付け病害虫発生予察注意報第5号（タマネギべと病）や、佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき P261～264 を参照する。

連絡先:佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085